

後期

全学科で対面授業

学生・教職員にPCR検査実施へ

NEWS CIT

2020 8・9合併号

千葉工業大学・入試広報部

https://www.it-chiba.ac.jp/

毎月1回(8月を除く)15日発行



津田沼校舎の正門に設けられた検温所

防ごう感染 守ろう健康!

検温・手洗い・うがい・消毒・マスク着用の習慣

①体温が37度以上あったら外出を控えよう②各キャンパス、建物入口に消毒液を設置しているの

3密回避

①密閉...講義室などの窓や扉は、感染対策(換気)で開放しているの

飛沫防止・自己防衛

同一空間に感染者がいると、かなりのリスクが生じるので、感染リスクが高い場所へ行くのはできるだけ控えよう。

その他

①接触確認アプリ「cocoa」(https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/cocoa_00138.html)に登録して、陽性者との接触有無を確認しよう



後期授業については、オンライン授業も併用しながら全学科で対面授業の再開を決め、9月連休明けの23日(水)から後期ガイダンスを開始、28日(月)から全学的に対面授業の再開に向けた準備がスタートした。

後期開始にあたり、本学は下記の感染対策を実施し、学生たちが安心して学修できる環境作りを整えている。他大学に先駆けて、全学生・教職員へのPCR検査を導入。対面授業の再開に向けて、まず寮生全員を検査。次いで教職員への実施を予定している。寮生以外の学生への実施日は現在、調整中としている。

メデイアが注目 iPadを全学生に無償貸与している本学は、オンライン授業へスピーディーに移行し、心の確保を第一に考え学生に無料の食券を支給。入構時の検温体制や各施設への感染予防環境を整えた。また前期、早い段階で一部対面授業を実施したことが、私大の新型コロナウイルス対策の好事例として文科科学省のウェブサイトに公開され、メデイアから注目された。

ニュースガイド

- 2面 成層圏でロケット発射へ・和田研が実証実験成功/松崎教授に技術賞/名誉教授に2氏/京成電鉄から消毒液/令和3年度入試の変更について
3面 秋季卒業・入学式/多古町、いすみ市と協定/特別支援学校から返礼品/松井学長「富士山消しゴム」贈る/本学5年連続で世界大学ランクに
4面 ウェブ特設サイトでオープンキャンパス/クラブ活動徐々に再開/出版案内/訃報

ウィズコロナ本学の対応

【入構時の注意事項】

- ・入構時に学生証をチェックします。必ず学生証を持参してください。
・マスクを着用してください。
・検温と手の消毒を行います。体温が37度以上ある場合は入構できません。

【学生支援】

- ・全ての学生にマスク、マスクケース、食券(2万円分)を支給。
・授業の形態によって学生にフェイスシールドを配布。

【大学への入構】

- 津田沼キャンパスII 正門、車両門 ※駐輪場は利用できませんが、通用門は閉鎖しているため正門へお回りください
新習志野キャンパスII 正門 ※

【建物講義室】

- ・建物出入口とトイレ前に消毒液を設置。
・階段の昇降を区分けしします(一方通行)。

【エレベーター】

- ・エレベーターの搭乗人数を制限します。
・各教室で収容する学生数は座席定員の30~50%とします。

【講義室の窓及び扉は原則として常時開放して換気を行います。】

- ・定期的な室内の清掃及び消毒を行います。
【授業・研究室】
・学生同士の間隔は1mを目安に確保します。

【以下の方法で、3密を回避して運営します。】

- ・オンライン形式との併用により、対面授業クラスと自宅学修クラスに分けて、隔週または一定週で入れ替えを行う
授業を2つの講義室に分割し、講義室間をライブ配信で行う
実験、実習をパート分けして、会場を分散して行う
授業時間内で時差グループでの区分けを行い、時間入れ替えを行う。
・研究室は在室人数及び滞在時間を制限。
・研究室内の食事を禁止。
・研究室ごとに消毒を徹底。
・研究室利用チェックリストを作成し、感染防止対策を徹底します。
・咳エチケットを周知。

【スクールバス運行】

- ・感染対策を徹底し、乗員の人数を制限したダイヤを編成(乗り入れ時のアルコール消毒、乗車時の会話と飲食禁止など)。

【食堂】

- ・入口に消毒液を設置



支給された食券を利用する学生たち

・通路を一方通行化。
・食事が終了したら、次の利用者が着席する前に除菌清掃します。
・混雑時には入場を制限します。
・飛沫感染防止のため衝立を設置し、十分な座席間隔をとるように椅子を間引きします。
・マスクを外しての会話を禁止します。
【コンピュータ演習室】
・向き合って配置しているパソコンには飛沫感染防止用の衝立を設置。
・十分な座席間隔をとるよう使用できるパソコンを制限。
・係員によるキーボードなどの定期的なアルコール消毒を実施。
【学生寮】
・入館時に検温。
・毎朝寮生一人一人の検温を実施し記録。
・飛沫感染防止のため食堂に衝立を設置し、十分な座席間隔をとります。
・食堂は入れ替え制として3密を回避します。
・共用スペースは3密を回避するともに利用制限を行います。
・寮内でのマスクの着用を義務化します。
・放送及び巡回により感染防止に協力を呼びかけます。
・館内の消毒及び換気を実施します。
・アルバイトは届出制として、感染リスクが高いと判断する業務は避けよう指導します。
・浴室は3密を回避し、入れ替え制で入浴。
・感染者発生時の対応及び対策フローを寮生に周知します。
・門限を20時までとします。



衝立が設置されたコンピュータ演習室

成層圏でロケット発射へ

和田研 実証実験に世界初成功

大気球で吊り「地上で」より低費用

高度30キロの成層圏に浮かべた直径100キロの大気球から宇宙に向かって小型ロケットを打ち上げるといふ壮大なプロジェクトに、機械電子創成工学科・和田豊准教授の宇宙輸送工学研究室が挑んでおり、このほど、実証実験に成功した。

「やまぐち空中発射プロジェクト」と名づけられ、山口県内の精密部品製造企業3社と東京都内の宇宙ビジネス開発ベンチャー、一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構が参加。2018年度から山口県の補助金を得て開発を進めてきた。和田准教授の研究室は、気球を使ったロケット

ト発射システム全体のデザインとコンセプトの検討を担当し、中心的な役割を果たしている。このプロジェクトのユニークさは、気球から吊り下げられた不安定な発射システムから、ロケットを目標の方向に正確に打ち出す技術にある。

7月25日、山口県宇部市内の採石場で、大型フレーションにロケット発射システムを吊り下げて写真、和田研が提案した姿勢制御装置と無線点火装置の機能などを確認する世界初の実証実験を行い、成功した。

発射の衝撃の影響などを、この実験で得られた加速度計のデータや映像から解析し、今後、本格的な発射システムを開発するための基礎となる数学モデルの構築を進めるが、

ここでも和田研が主導的な役割を果たす。

このプロジェクトが狙っているのは、近年、急速に伸びている小型衛星市場への参入だ。とりわけ需要が拡大してい

る民間衛星の打ち上げを受注するためには、打ち上げ費用の低コスト化が不可欠。成層圏からロケットを打ち上げることができれば、地上からの打ち上げに比べて燃料を大きく節約できる。

また、放球場を比較的自由に決められることから、わが国のロケット発射場不足の緩和にも役立つことが期待される。

やまぐちプロジェクト自体は当面、小型ロケットと、これに搭載する100キロ級の小型衛星の一体開発を進めるモデルの構築に取り組み。一方



崖を利用してロケットを吊り下げ



実証実験で学生たち

防災に新概念を提唱

松崎教授に技術賞

デザインを通じ社会に新たな価値の創造を図る松崎元・デザイン科学科教授の写真が、秦康範・山梨大准教授、佐藤唯行・スペラディウス㈱代表取締役、西原利仁・アスクール㈱部長、目黒公郎・東京大教授らとまとめた「防災に関する新しい

概念『フェーズフリー』の提案とその普及啓発」が5月22日、地域安全学会から技術賞を受賞した。

2020年度地域安全学会春季研究発表大会（鳥取県米子市で開催予定）が新型コロナウイルスの影響で中止となり、

郵送での授与となった。地域安全学会は、生活者の立場から地域社会の安全性に寄与しようとして、自然災害・人為的災害を問わず安全問題を研究。自然科学や人文系など幅広い研究者・技術者らが協力している。

松崎教授によると、防災に関する新概念フェーズフリーとは、社会の状態（フェーズ）を日常時と非常時に分けて考え、どのフェーズでも役立つような商品・サービスをデザインして普及させることで、安全安心な社会を実現する考え方。『備えない防災』とも呼ばれ近年、大手企業や自治体で注目されている。

松崎教授は「with コロナ、after コロナの新しい日常にも資するフェーズフリーの考え方がますます注目されています。今後もゼミや企業との共創により、多くの商品開発を進めていきたいと考えています」とコメントした。

◇新型コロナウイルス感染症対策に伴う令和3(2021)年度入学試験の変更について (9月1日現在)

■大学入学共通テスト利用入学試験（前期）
 合格発表日（変更前）2月6日（土）⇒（変更後）2月10日（水）
 入学金締切日（変更前）2月12日（金）⇒（変更後）2月16日（火）

■編入学選抜（指定校制・高等専門学校）
 面接試験日（変更前）11月23日（月・祝）⇒（変更後）11月22日（日）

■学校推薦型選抜（指定校制）〔一般高校・専門高校〕
 書類審査、小論文および面接（変更前）⇒小論文（※）は出願書類とする。面接は免除とします。
 ※具体的なテーマや形式など詳細は10月5日（月）に本学ウェブサイトで公表。



登嶋常務(左)から目録を受け取る瀬戸熊理事長

京成電鉄から消毒液 本学に

京成線沿線の学校施設や自治会を支援する京成電鉄㈱の登嶋常務取締役が7月14日、本学を訪れ、本学にアルコール消毒液10本を寄贈した。

登嶋常務は「新型コロナウイルス禍のなか、我々が地域の皆のために有効活用させていた活用させていただきます」とお礼の言葉を述べた。本学は多くの学生が京成線を利用。また、プロジェクトマネージャメント学科（田隈広紀准教授）が京成電鉄との共同プロジェクトとしてフィールドアクティビティ授業を進めたことなどが今回寄贈につながった。



花田 孝郎氏



三澤 哲夫氏

名誉教授に2氏

本学で長年、教育に尽くし、学術の向上に寄与した2氏に対し、本学は4月28日付で千葉工業大学名誉教授の称号を授与した。新たに名誉教授となったのは元デザイン科学科教授の三澤哲夫氏と教育センター教授の花田孝郎氏。

C 研究員各1人が参加した。学生参加で効果

和田准教授の話 宇部市では本学の学生らが打ち上げ実験全般の指揮と安全確保に当たりました。このような実証的プロジェクトに学生たちが参加できることの教育効果も大きいと思います。

ウェブに特設サイト

コロナ下のオープンキャンパス



特設サイト表紙

新型コロナウイルスで、本学は2020年度(7月から)イベントが開けない状態が続いたため、本学はオンライン上に移行。ウェブに特設サイトを立ち上げ、オンデマンド、ライブ配信など、種々のコンテンツで代用した。



全部見せます千葉工大——撮影の様子



模倣授業の動画を配信



学生企画で、高校生らの相談を受ける

ならでは魅力が詰まった体験型模倣授業もオンライン上で配信し、自宅にある身近な道具で実験できる「学び体験」などに、学科教員たちが知恵を絞った。

クラブ活動 徐々に再開

クラブ・サークル活動が9月1日から、段階的に再開され、ラグビー部などが徐々にグラウンドの感触を楽しんだ。写真。ステップでは、屋外で行うクラブ・サークルで大会に近い団体を優先。一部員、その家族、関係者、地域社会における新型コロナウイルス感



活動時間や部室の使用時間の制限、グループ分け、部員の検温(同下)や消毒などウィズコロナの習慣に取り組み。「とにかく練習できることが楽しい」と笑顔が戻ってきた。

同窓会



新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。ともに罹患された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

世界中に猛威を振るっているこのウイルス騒ぎの中、今年度も既に半期が過ぎ、残り半期となります。

暗いニュースばかりですが、何事にも前向きに考え、工学生ならびに教職員一丸となってこの難局を乗り越えましょう。きっと良いことが待っていると思います。

新習志野学生課 竹内 秀一

四季雑感



Stay home. & Go to the rain will say how fragile we are. (雨はどことなく語りかける。我々はなんと脆い存在か。)が繰り返される。Sing's "Fragile" もよく聴く曲の一つだ。映画『メアリー・ポピンズ』の中の困った時に助けられる魔法の言葉 "percal fragilest icecap"。

「with コロナ」という新しい生活様式が始まった。本学も後期授業から全学科が対面授業実施となり、キャンパスには笑顔があふれている。心晴れやかに過ごすにはまだまだ一人ひとりの心がけと責任を持った選択・行動が必要だ。思いやりを忘れず、ご機嫌な毎日をみんなで一緒に作っていきましょう。

教育センター 相原 直美

編集だより



この数カ月、思いがけず増えた「おうち時間」。外出自粛やテレワークなどいつでもより時間にゆとりができて、自分のために何かを始めた。というケースが多いようだ。東京女性のホンネ調査によると、1位は「部屋の整理」。2位「料理」。

3位「運動」。自慢ではないが、葛飾区に中正真正銘東京女性(?)の私も、まさにこの通り。「部屋の整理」では、引っ越しを機に、断捨離。「料理」はコロナ禍を意識し、免疫力を上げるべく、発酵食品の味噌などを手作り。「運動」に至っては、コロナ太りを解消するにはほど遠い、犬の散歩程度であったが……。

数カ月にわたる自粛生活が少しずつ緩和され、入試広報課 大橋 慶子

出版

日本沙漠学会の設立30年記念図書として、矢沢



沙漠学事典

著者 日本沙漠学会編(編集代表 吉川賢・岡山大名誉教授、本学の矢沢勇樹・応用化学科准教授ら沙漠研究に関わる研究者たちが執筆)

発行 丸善出版 価格 2万4200円(税込み)

勇樹・応用化学科准教授が実行委員長を務めてまとめた。沙漠学とは「砂漠を含む乾燥地の環境を知り、そこに息づく生命の謎を解明し、さらに人々の社



矢沢准教授

会や暮らしを学び、それらを守る「学術。地球の陸地のおよそ3分の1を占める砂漠について沙漠学会は世界の関係機関と連絡を取り合っ

SDGs時代の「沙漠学」

SDGs(持続可能な開発目標)に沿って砂漠化の防止や緑化に関する研究が執筆者たちによって行われている。内容は6章構成で、砂漠とは砂漠の自然環境と乾燥地の生物、砂漠の生活と文化、砂漠の資源と経済活動、砂漠化とその対策、など。約220のテーマを、写真や図表とともに見開きで解説している。

吉野用務員 死去



本学新習志野施設課用務員の吉野一夫さんが9月3日、肺がんのため死去した。64歳。平成22年4月1日から勤務し10年間、施設課の運営を支えた。